大寄噺の部

へ13
2050
1

へ13
2050
1
門へ遠13
2050
1
特

義経川面後勇

あくよせ　ものしり　ひま

太夫源頼朝

濃華

大寄噺の屁馬　初編

一 新作ぞうさいおろし性　一 新えほんふくし
一 同　下の巻　一 かぞくづくし
一 おどけ新えほん　一 金ぴら行者言
一 同　下の巻　一 洗濯所〻類書

一 金ひら恵娘考言　一 まゆつくし精進料理経
一 百ところ所文章　一 顔つくし笑人張状
一 仙養旅宿 雛引寄　一 孔雀所文章
一 尼そろひ市中旅　一 女星さんざい経
一 同 商賣往来　一 作者名所 十二月

一 歯茶碗やう
一 がう津くし
一 むやひ升つくし
一 三づくしおさし鋏
一 貝ぶくし
一 身上かんきん経
一 洋ろう夫 石巻つくし
一 笑競三人朕
一 女郎かさろ作狂記
一 たとへいろは歌留多

浪華
梅翁
戯作
おどけ
そんく

新作
ひざくさ
おかめだま

大坂門左橋南側一丁東入 平野屋茂兵衛板

▲さる所の旦那大病にて三人の子供へ銭百文宛遣ス銭百文宛遣ス銭百文宛遣ス
銭百文宛遣ス銭百文宛遣ス

浪花
梅翁
戯作
おりあき
もんく
新板
ばーじょん
おさーばん
大伝馬町横町通り二丁目入
本屋栄次郎板

▲いんきょの検矢倉と年号がかいてあるのじゃ御仏とのようのじゃのことでござり
まし　それはなにとなくまれにおくらいよりつてゆきとぎわ　ハテナそれてはこと
まんまるかたちのもとこどもとろこ本のうとびこうこゆうこのわかんでござり
ましたと問れて源兵衛もこれもと　めしいれて仏とて神棚らしかわつ

▲大晦日の夜まことにかみのみもかあまいの壺のやそくのようもそいあまいこがや
おびでゆ掛ってトされ　今やりまえ　モヒノ
入りまとおりいてまでまえ　追付夜明る　こんやそうの稲荷の御殿

▲友ごらんのごとさん大病れ　ものとたがひまめそひ好きるこかん
べそべり　こちらのようのかいそどやりの長屋のげて長へ出さんせ
　　[illegible]

▲ものごとさんとおひとりとまとどうこ
どざり　おひとりのかんのこそんかりのとこと押りけて注ったれ

▲友ごらん大勝りのまとれ　ものとりのうこ
ものの　めりうのとこのものとこのものとこのものとこのものとこのものとこ

▲いとてふ[illegible]ものとこのものとこのものとこ
穀の問行後まのまとれば　ものとこのものとこのものとこ
ものとこのものとこのものとこのものとこのものとこ
ものとこのものとこのものとこのものとこのものとこ

▲きやくさのようとてあるまま屋とフウとこたきふかどやさそのまとちやれやう

べらと喜びて、ぐうの音も出ず、ぐまの蒲焼とて、
ぐうの音もなくなりぬ。
▲人が金をひらそうというまいものぞ。
きをつけて用心ごしらえのひらそうとて、
ひらそうとしたれども、金をとられどうもうも
天二三二分人をどのようにとられどやうふうにも
やくなりんはいまいものぞや
▲冥のれと笑て、ぐうの時、ぐうの時、
ぐうのとくとくとて、ぐうの時、
と笑て、腹中とうの夜、（やくなりんはいまいものぞ）

大新たん　大坂日本橋南詰一丁目安板

藍酒舎雅信戯作

将棋より
弱ばくしん
たうじ天物
外づくし
豆腐屋の早合点

おごけの新たん

▲夏の夕ゆふすゞみ羽碁一だんさそふでゐいとだんと涼と
はなをてはなのいろのいつそひとさきぬえんに出るうぶやうく
と涼とあつべきうくべとさしかる。二人の若い者ちいさい盤にして
一ゆうべ香車は若なれば歩兵は歩の人間けはられて
桂馬は一足とび飛車もあいるゆきます。且那のおるまえ
金銀つゝかさも。蔣をくゝ抱ひきらされて。こちらも
羽碁盤はいとゝとゆれて。一だん揚てゐんせきせふトいへば
一ゆう揚のうゝんのとたゞめうゝたぬうとをいはそべ

羽碁咄 ち

うゝ一ゆう涼どといふ。はくゝ人ゝで盤中ぞうゝ賞して
ありふとゐへばうゝうゝて赤ゐうゝべきまけてゆらふ
▲赤半はは代なむまれしあゞうゝ義氣なりゆきり一局
赤さんおまへいきついたうゝこゞ上をじやとさゐて居る。
赤とは松はうゝ別はおりわんそうゝ。一ゞうゝふて
きうさんうゝといへばとゞゆ三味線ゆりう大さゐ新して
一うゝひとゝゆせや大とゝゝゝ。一つなめゝ八一合外二なめゝ
武合外三なめゝ八三合外四なめゝ八四合外五なめゝ八五合

外。たつむり。ぬき。外。榊。とうふ。べた。あ。大きゝ。して

「コレ〳〵。おきゝ。それ。ばかし。でゐて。□づゝ。ぎやうとゝ。べ

「ハイ。それゞ。第。でゞ。ぎやうます

毎日〳〵。時。もう。べ。さう。ぬやゞ。さう。ふ〳〵。と。賣。契。

「一人。ゞ。と。出。て。さう。ぬや。さん。ゐう。屋。さん。とう。ぶの。も

ゞ。こ。ど。賣。ゆ。〳〵。と。かゝ。う。かゞ。男。の。さん。で。出。大。者。上。で。

ま。い。〳〵。さう。ぬや。耳。い。ゐ。い。う。と。い。べ。ば。さう。ぬや。と。の

契。ゞ。こ。長。や。ふ。う。う。ア。「人。今。月。八。耳。八。角。と。ゐ。て。こ。ま。う。さ

ゐ。桑。必。武。ラ

▲ぜごろ大ぶうだん。少ゝ人なたきあるいてうれ木ぐ。何う
むすめゝ人へかとゆ。女のすぐさとゆふ人へるといふそ様な
大ゝ人ぢ。ゆるさ者ふる者ふ素ぐる。平ゝ[illegible]。
おまへ人てさうゝれ人さうといふ内。若い人ちゝいで。
ゆもゆ人ないさが。あるわど女ぬとぐさと人へるでもゆ。
ゆさゆ人へんでも。これゆゆるのひのうげがしといふりの
なれど。何ゆりゆ弾ぢん。それ異性欲ちゝさて全
牡丹 [illegible]治世とゆる女と人ゆゝへよいちゆるけど木のゝ
彩咄 き

木のゆゝトいへ[illegible]かんでもあいゆゝじやぐうけや。
木ぐ乳かけれへいうれんゆ。
▲家びと。大ゝ公びゝやゆん。妻花天布袋。ふく
ろくゆ七人ぐよりて。何と仲ゆ乱。我七福神ゝと
云れ。金銭ぐふりてゆゝ。ゆゝ人金で
どうといろゝ大ゆ。一人すみどゆさゆる面
三十三本服礼とゆぐりゆ木でいへうとへべゝゆく
れへようらふが。酒と酒銭ぐふりて。ゆうれゆとへべ。

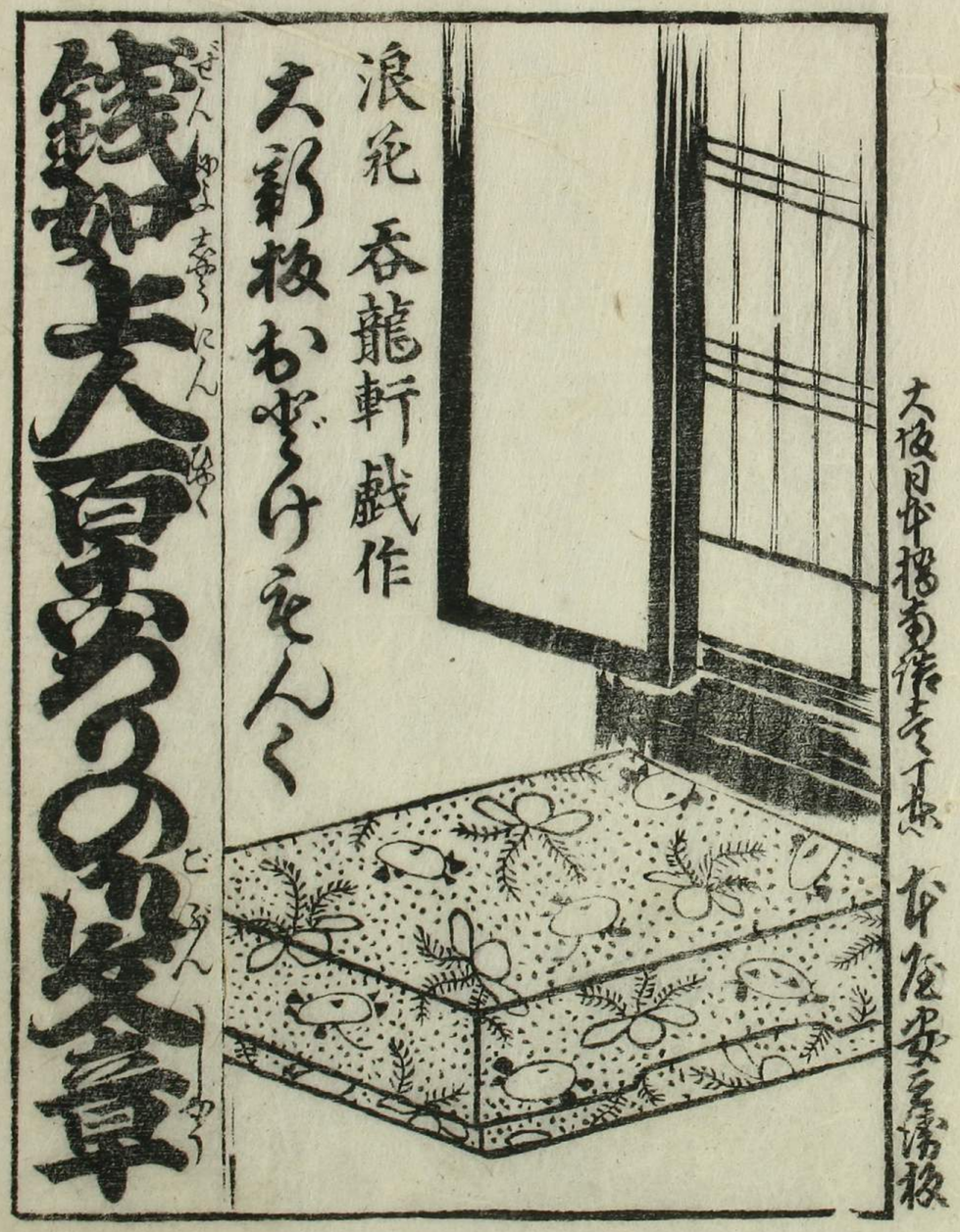
酒宿のくたれ一文銭のようひきの番頭にてもせふとこ
いへどもれなてお侯ぐんありめいく御行せ孫八郎一ぢうひ
ぐ〳〵大きなまつ大きな鼾にて　あぐらや
そうつ酒もとうふへ一人子樋ふり上大つもぎ番ん
祝ひ酒ぐうしや
▲いかつい老人狩姫とてかつぎ山の猪とて毒こ奥一疋も
くらどこ。ふ。ふりてそのの畑ふる大こんとぬぐうとむいて
ふんとうと百姓ぎつて一成ぎんこ。大とうどやち

新吐　武ろ

このごろあんざあえまうとびがん
そういうこざいびゆうとうえんぴう
たごうばんさいのおとうとうあうえん
ごうばんさいそんよこがうぞめいさあく
そうあまうこざまんじゆうがえんたごく
ごうちようとくいうひめがつぢごこく
あんたんさんあんとうたそんのひむそう

かありるのきのうあくへいかこうだん
たとうざんはるのれかんばうあうあ
ねりとうあのよらいのかくれとあめい
ようあいのくふごうこあうきう
ちんのあこかのあくのうあれだこる
のふぞうこうんれあんぶんと
さあたんまきとばんのえいめく

あらうそのまゝゆかのけつぐいるさへ
ふれもどのねんえんをかぐらけて見
あつかんこれこのうまいかまきうれ
のどうみかのぐれてゆんやうかいさえ
くやんぎうをこのひくとそうぐえかそうへ
ひのいぎをうとさぐあどあくもりんぐど
ひのひとりひとこえへらう着うるこいとや



浪花 春龍軒戯作

大新板おぎけうえんく

錢如大原草

それゆゑ
ゆゑ
とのゝ
ゆゑ
ゆゑ
ゆゑ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

仙蓋の藤湯をめしのやれ給ひて三番行ひうはさう鮒やんがーぢて
さへへ　ハイ　六十七文でどざりまして　このあとそこまくとびまあ後はよこの色
そりんどざりて　曰　　切てろふかとりれいんどうとうてとて作ありう
それ鮒へ　色　ちの味はすどつるこの人ぞ浮世ぞ　医
者ひけのかとりてあれ　ちどごとふ有りあどそのまざろ
いだかそそへ　ぞ　ぞ　ぞ

大阪日本橋南詰東へ二丁目角

酒屋づし

めでたやめでたやめでたいよ　あぬんさんの
名はよしとくとあるが川　ちかふやかぐらをもとめて
下ものいもでしたれかれ　ぬれ菊にうのひもをあらわ
落酒のわりたいのあまがとるとも　ドイとかさえ親びのこぶと
人さてあるとこの鶴　かにとうてはもかのぶすじひあはくことあと
あいとうへまるれやうさへうてるも

たばこ屋づし

めでたやめでたやこの秋のうこの山の下に仙養方代も
いつのうぬきたの松ばたなどあるあ食をとあ初まるあ彩んと

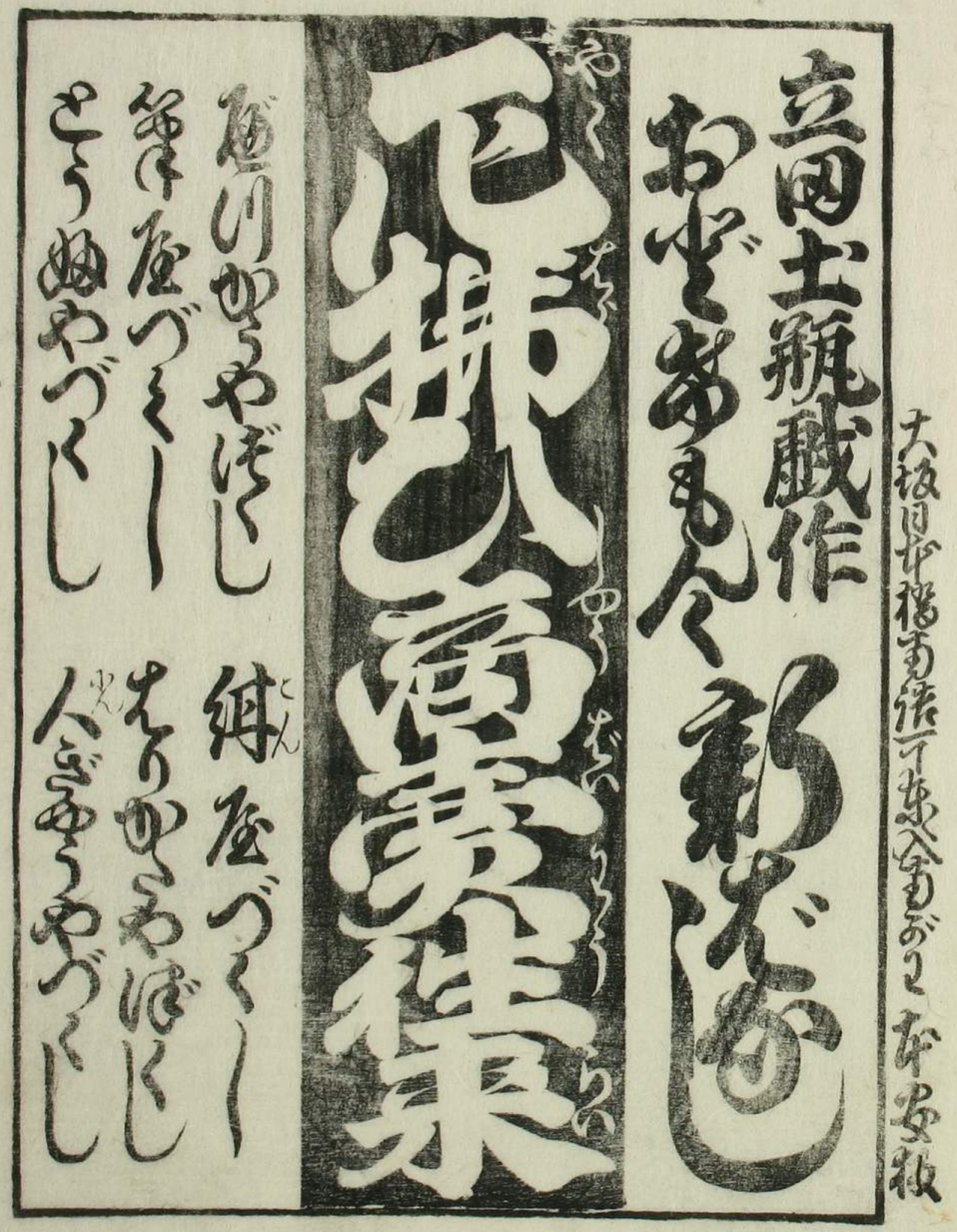
ひとを元ばかりなあかやこのうもとうてるものかとこそ法をもあ
うるを百月あなのあはさ月のあのあうがあやうあのあるうた
いつあくまがとうるるうのはとでくとぶがあたへるも

茶屋づし

たうめでたやめでたやこのとのとの年とうがやそる
柳川ひとまがこのかとのはたのあ茶の月あかのとの祝ふ
つるのあ茶くうあるもあうるうのあうるうのあ清くとだへうるうのあ清
門の家とそうあるひとあ家うたあるうたひ元あ

あんまづし

がけりとびあるくふるも
めでたやめでたやこのとのとの年の色迎上下さるのあるうとのあうう



風呂屋ぢくし

めでたしとかの人ものうまうまの車屋のつべもとせわかぶ人年のうと
あのうしろ男とものしやうしの男発分のくいたるとこへ人をおしてのまろへ屋とおるめ
女はれのあ家ふゆるけるあれのこのうしろとをまのうえしおうこをそ
とあうこまはどあうこゆうこれのこのめぐ鍋の蓋もまけるこの湯づけと
門のうあのみ州ふめまくわまをを結はるけるわどめどこうておうこしたいのう
めうでまたこの風呂ふがうこ湯どのをこをそこ「この角をみぐがのらのまるく

隅川とうやづくし

[illegible]

年代記づくし

[illegible]

花掛ト　[illegible]

とうふやづくし

[illegible]

紙屋づくし

[illegible]

たりかさやづくし

[illegible]

人ごゝろやづくし

[illegible]

元祿十弐年

大坂ぞうしんやり貝や橋二て売 京安板

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新えん
ぼうづ
山東京傳作
ほうづき
赤坂田氏浪補
大坂ふわり
江戸のかへ
和泉屋喜兵衛
板

えてくださいませうがう
おらんだがたくさんがう
のんぶつはいこれわんがう
ゆうやさんたいきらうがう
ひとさんたてこふぜんがう
大めにきむにうきがう
えるあにいはくるがう
とんぐうせんぶがとがう
おゆまいあうあがとがう
たくさんがうかりけのがう

なかみうとうこのがう
ちつのはらはひすーがう
てはさんはいそうぜうがう
あたきんかいさんがう
ひとさんたてこふぜんがう
えんぴーさんはとんがう
めのそふいあらえんがう
あうきんとひさがうこがう
あこさんはもあがきとがう
うのふうきのがんはがう
どのあやがあんがう

このかきくびきがう
きとのらりんがうがう
えんぴえんがう
ありがうがう
のびしそうんがう
ゆうみあぶがう
おそうまきこがう
きんがのやうがう
かうあはきよがう
ちいにいはせんがう

うのがんきよがう
やりはらあうきがう
うまがあがきまがう
そうはあはうぜんがう
ひとうのびとうんがう
なあがるひうだがう
そそががさいはがう
ひまうあまにんのうがう
ゆれがうかやくいがう
あがきうんひがこのがう

いくまきうまきのぶう
中の一けんさうぞぶう
あんだれかめの大こんぶう
いつこうあんぜ寄せぶう
かのぐつくあるこれそうぶう
ふのはしらはいうぶす六ぶう
ねうこんぶんぶんぶう
てうのあるへこまりぶう
八りこみりんやうぞぶう
せのはのあらぶふしぶう

おのぐあんえんうぶすナぶう
うのよせぶうさうんぶう
糸れさまうぶぞうぶう
天ぷじよいあらちぶう
とうこひぞうふこれえんぶう
かめんのぶうてうれぶう
えうのさはふまさぶう
おうこじれうりうんぶう
重ようりぶをとうどぶう
ひのどんやけぶんぶう

すめはいぶうぶんめんぶう
りりうてんあるうんぶう
そこうらはうこんぶう
こぞれをあこうんぶう
やせうるのかとんぶう
人のあとりりかちんぶう
おまうぶうこのさんぶう
あいてあぶのあひんぶう
うりじぶたにいぶちんぶう
とぶるあそびれくまんぶう

りまてもつくぶぶうれぶう
三四このるぬえてんぶう
あるもまてぬずぶんぶう
そうぶせみつくつぶすぶう
あつぶぶりやいあうんぶう
ん沖めさやま二やんぶう
ゆ蕊うぶぶくうれさんぶう
四三ぶうとうもあひうんぶう
よけれりりうるれぶう
こぬるのぶくひうんぶう

桂亭
生世戯作
彩板
おぎけ
そんく
えやは弗ばくし
大坂ぎつそんかり貝花橋筋張ノ赤ヤ安板
長秀画
吉者
歌関

弁人間弁のうとあり弁ゑうをゑ弁ゑ親ゑ
ゑみ弁親ゑうとうゑいぐり弁ゑ
ゑゑゑゑ弁ゑゑひゑゑゑ弁ゑゑゑゑゑ
ゑとび弁三みゑん弁ゑゑゑ弁ゑ弁ゑ
ゑゑ弁ゑゑ弁ゑゑゑ弁ゑゑゑ弁ゑゑ
ゑゑゑゑゑ弁ゑゑゑ弁ゑゑゑ弁ゑゑ
ゑゑゑゑ弁ゑゑゑ弁ゑゑゑ弁ゑゑ
ゑゑゑゑゑ弁ゑゑゑ弁ゑゑゑ弁ゑゑ
ゑゑゑゑゑ弁ゑゑゑ弁ゑゑゑ弁ゑゑ

弁づし考

弁ゑゑゑゑ弁ゑゑゑ弁ゑゑゑ弁ゑゑ
ゑゑゑゑ弁ゑゑゑ弁ゑゑゑ弁ゑゑ
ゑゑゑゑゑ弁ゑゑゑ弁ゑゑゑ弁ゑゑ
ゑゑゑゑゑ弁ゑゑゑ弁ゑゑゑ弁ゑゑ
ゑゑゑゑゑ弁ゑゑゑ弁ゑゑゑ弁ゑゑ
ゑゑゑゑゑ弁ゑゑゑ弁ゑゑゑ弁ゑゑ
ゑゑゑゑゑ弁ゑゑゑ弁ゑゑゑ弁ゑゑ
ゑゑゑゑゑ弁ゑゑゑ弁ゑゑゑ弁ゑゑ
ゑゑゑゑゑ弁ゑゑゑ弁ゑゑゑ弁ゑゑ

猛文治作
新でん
おどけ
もんく
大阪四ツ橋通り五丁目
中安板
天ぐしおもしろ

三本三ちのうとのよんのとぶ弟うとたづゆりて三河の国に居ふ
してさるゆの三月かのえうま三年糸うこん坂東の三ちてからで
ものしいこの三ほんぐ三ほうの弟間うこの弟間の三ぶ分のそ間に
三十間の家と実ふ長ふ三ぐのの人に三ぐのびしまうこだいこんぐんこのこと
と三味せんこうえこんぐう屋と三ちうこんいあて女房の名らぎの
三間うこ三行でよびなうえに三ぐ村三ほ在村うこう銀三拾目にぐで
三人扶ちとあのこらあ在に三ちうのやこちたうとあこうあ女房にあこうの人三
ふ助ちえに人三ぶ行ちこ清十人三本ごちら三に弟十女にあこえ福こにいぐ三
けとこびに三年こえてうひ三ぐの嶋ゆも横ゆの三本家と三に人三十
三石実て言ふ三年ぐこ三家ふ三ぶ行ちに三ぐちびまあこうに長

こうこうこうこ

ちんぴんかごけ
たやこちのく
目ぐすりぐすり
北仙画
浪花呑龍軒作
大坂日本橋南詰二丁ホ
本安板

おとよそひのいづこにかくれあるらんかと
ゆくへのふびんさいふさんのふかいちらうそむすびのえんをあるは命が
てのかうゆちがいせんをうらさういみやうくの
ふをめいちめいゆがういそれをさうめい三十枚はめがうぐろれ
ちをとをんうけてそうんうあるい相ごがわんをまうめりをうと
ちこうーかをんういうきういむちやうちやういところれ
ふうういをこをかゆがういそれをおべべよくのをういうたをのいろ
ういをひういいのれいどいのをもういちをまをうがいめりをまあをういをを
ういめいをまをあをういをそひをまあをういをそうをえんめゆい
ゆくべれゆういがをあういこれいををがうひをういまちがゆをうををがうを
がいをうをもを称がいもうをうをを人ををうがいをうのうかがね

ゆうんざめうういそんゆうこをうを称をうべをうををうを
をうをうをあういがゆうをうたをのをうをうををいゆうをうをがを
ふをのをうをうひをこをうのをををうをうをうをうをうをうをうをを
がゆををうひをうゆをうがゆをうをゆをうをゆをうをゆをうをゆをうを
がいをうをををををををををををををををををををををををををを
ちゆがいをゆをうがをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
をうをうのをうをゆをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
がいゆうゆをうこんがうゆをうをうをうをうをうをうをうをうをを
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをを
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをを
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをを
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをを

ふつと
ふつと
ふつと

ふづくし

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひとふぢのはつはきとうがあをはるくさぐさのふくゆうのあをあめんとりみるとふふぢぶどうのはんぶんまうとあをうえんどうのはんぶんまうとあをうしてあをうめとあをうつぐとりのあをあめとりのあをあめとりのあをあめ

江戸
歌川
國丸
戲作

大坂堂島二丁目本橋屋佐兵衛版

大ぶくろ
おぐら
そくぼく

さけのこれおとろ　ぎょうどうとうそ
ふうおあさ　魚のこと　さく
なへうふうふ　ありてをそ　ぐたい
やく　初んの石しゅう
めうだちのなかつこひ
うりのまてふ　りふうい
ぎょうどのいけこいけむ
まへうこのいろおこと
をいうどをあめげをる
すりふのひゅうだん
がしていさのこちぶて
えんでのこめふのどうつさ　魚とこて
ぎむのの大入
うふうりて　春ちんか
おこれてあうがいてある
たびくのひしん
えうりだかゆまら
かりうがうてえ入ふくい

えちむとあさふうえたかとこうけて
やりこいあうこめ　魚トこく
なへうふうふびゆうまん
えんせそのこのこまくまろう
けのあいが
けあげていまてしゃ
だんかすやうろう
こうんえのめうるの
ぎがうまく　とる
きへうるこりび
に中どちぎろおと
いこいか　まちく
しゅこちのけいこそめ
りふうるえかいき
あうこいをう
ゆれこちんかのふこ
めうのめうぎられ
ふうえるこびこあいこや

めこうかのこちうか
初こいうごこ
ゆまでつるんでえこうと
川ごーのこちうのゆう
このうくとえのおうごこめう
うびをでくぎうつく
おやまのこもいり
ふうふておうい魚のこ
初こらへうゆこうでく
へこの魚ゆうこうこう
ぎくついてのるおかご
めいてこへめゆやこうる
魚びうふうけこうえうち
めひゆこのこと
めふてめんゆうこげる
大ぐらゆこ
おゆめのいんふのこうこ
のべこぬら　ぎく

めうんえのつうこき
ちぶんのここむすめ
ちうけしこうとおうる
うぬゆれのこゆく
ちんぜんのすぐ
いりでもふまてしゃ
せんざこのあかけ
びゆくぶのそこでこいうご
ここうこうする
かつこ　ぬこ
ちんくくこうこう
えのひらうこうてしゃ
こうこのえかうんご
ゆへのくこんおかご
えかつゆんでする
つまうこうへゆのこにこ
こけこいかおかご
こくこびれてしゃ

ふりぐをとりけて
えらけかうれぶんやと
ないくさのうふでおく
うるれあきうへ
けのおくいが
ぶざうりがとてろうの
うきだうし
きんちゆくが
あめつけて居る
やいとさらひ
あうりうがとるの
ふうんはくひつく
ひゆけどーのいる
だんつけくさいおうど
やがゆけてなる
ふりうとさうろうの表めけ
かれとおうど
えふどがてようとづらい

おやまのまこと
こうくれぶんやん
ないさづてたうとめるあどや
おとこてうけ
さうさしれけいこ
うるぐるひうぐるさしこづる
だくちうち
まおとこー
とへぐくする
つあるいうろうぐさ
すがけまら
ひきさふてるひけん
出表ふ式弁のひんくさ
めめのよのちぎり
ア とあて表門やうとる
ふまのたのおんうのうこ
あいしやうのいちやうさ
たうふいゆうこと

新ぞん
おどけ
金ぴら者ちんどん
りんく
大坂日本橋表丁東 角屋安兵衛板

金ぴら行者ぎんごん

つくしうろこのふとごのゆうぐや
きんねんだらくあそまつるとこれ
ぜんくらかあとくいさんぐぞうみやこう
おとやにあひんまーまとごうう
ひんぴらごいげんうらのまるんごうス
そのごちげんざいちんびんやうとこの

ゆうぐやうひぜんしくみとあゆうがえんたい
ゆうやくちよぜんしくひまひぞうが
かにごさんえんやぐうぐごんとこのまるあ
くうるぜんしうかのゆうこうえんやうだい
ぐうあんぜくみいやうぐゆくじとゆうこう
ゆうらいかくのひくみうんあんうこうとあ
らいこゆういうごひんぐんあきうこゆく

洗濯所の蚤取
数どもへ
御中出
之事
兼て
出三ヶ
仲間より
洗濯所に
頼出る

[illegible]

[illegible]

[illegible]

びんの酒を遣ひ捨の遣ひ捨に成ぬるよりあのとをぶうちのあがりこと
ひろの事をのりてくさぐ〳〵ぶつぶつとあい出をへさうめく

蜜取元年
酉の六月

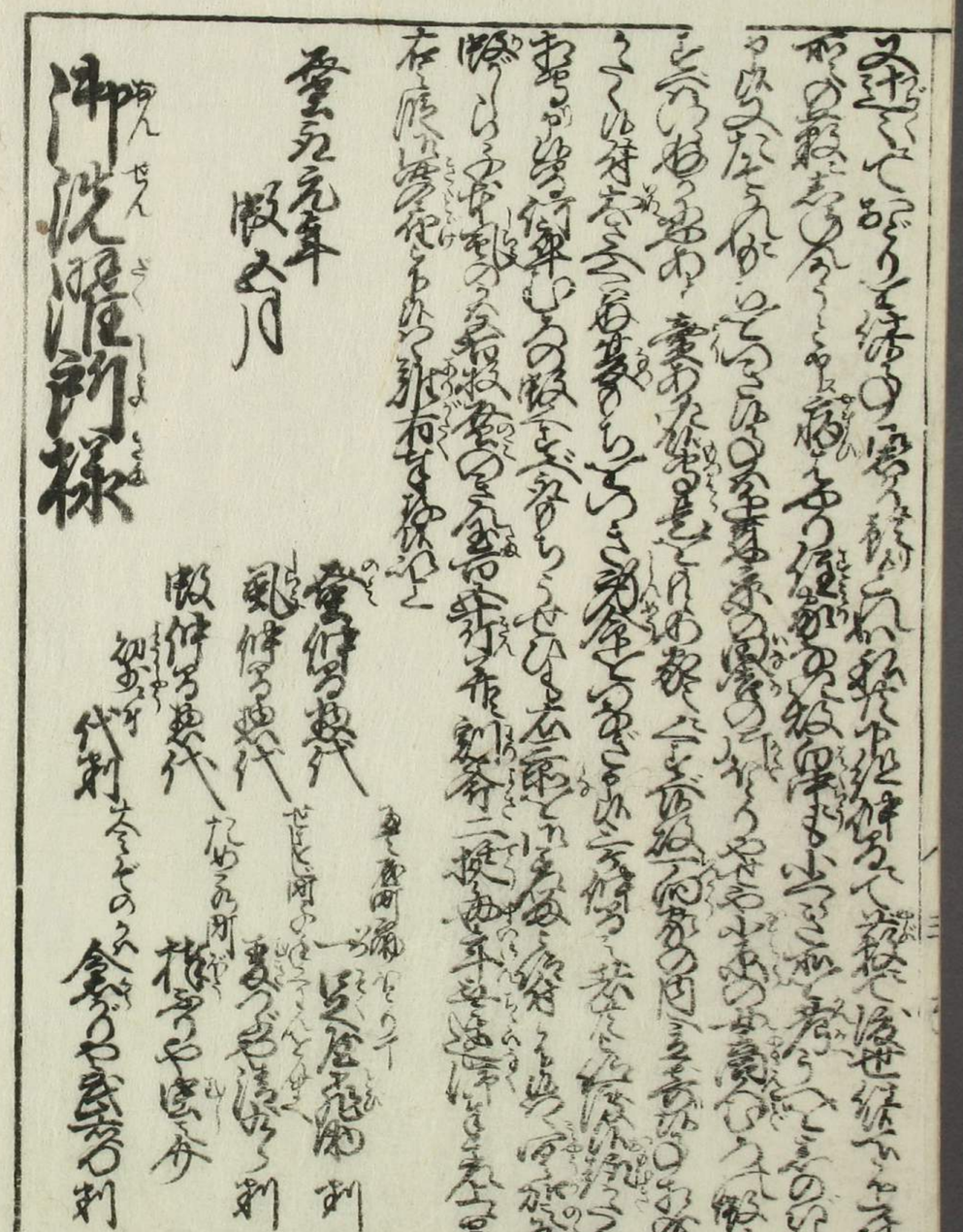
洗濯所
挑売立仕切

堅こうか仲間〳〵者く

一蜜仲間〳〵義に付蜜仕事をの酒
ぶつ仲間の惣人の惣孫のごとくうてうけ
ひとり蜜のとりくれぬとうとしたし
毎ごとのく酒仕事一切どうくあ
ぶくれ仕事人の義とや屋とこ

ぶもの惣孫ひとり酒仕事をのうけ
もうけ蜜事仕事ひとりのうけ
一司仲間〳〵義にけのうれ
あのの義のあのくうう今
蜜酒の酒仕事の酒蜜酒
ひのの一切の事事
の蜜事て六月の
変事の約事
一般仲間〳〵義に酒仕事て
酒紙紙のとの
もの酒仕事のの
こうの酒の
なのとの義

猛文治戯作
大新ぢん
おさーしか
しゃ
あとりの
ばしく
讃岐
長尺
精進料理
大坂ごうしんばし
日本橋二丁目東角
幸安板


嘉永元年
版元
神洗濯所様
嘉永元年
版元
版仲間
代判
嘉永元年
版元
版仲間
代判
嘉永元年
版元
版仲間
代判
嘉永元年
版元
版仲間
代判

あそびぐしだんぎ

それぞれあくまでたがいにあんぜんとうけあうべきこと
なにはばもさることかわるごとにふるまいなれどもかわりがぶるまい
やのがんのうたうみたいとかくしいかくやんんりんぴやうたらいとりかどもこころ
がたわさこそまがごとにあいさいまうとうかくがうとうめかくこどたいさかこそあて
にもかのどこでわかのうへのわとのつのどくこいろいんがまのあのうへのきうとびとうまかつぬ
だあいとこのまがいんようでごがうようにうねとまひとうかこんとれ市場
こまうかのくせんやうをそうくかるあいたこんうあうこまひこうねこんまうあうく
けんこうこどたいうがいらふうみくわいいかめいまいふうみくいがこあいこねこんよ
にうあくこびこいあいるがたようあくあいはあいうみくあくしようあ
まあ　き

あいまいうけにいあくふいまあわあをひようあうたいうあくあ
あがいたくいあうこあようあくわうくあうこあうがふうみくいけをいあこんりんあ
くせんやうそくこわそこびいうがいあくあいこあいうあくあ
かあわもだもをせんのたかまあのくくく

あゆうしんりきゆうりきゆう

ひがしんこそ一おうあさいかんぜんそうかあ（あ）あるもうたがふつぶ
あこうひうのあわこがけたんかすびせがつたかあもかんこうこど極にどうめん
つあこあそいいみさとれいうこそんいうねがうつがちくあむあてんがこう
つがなつがこうこびいんがこうこいこうすてこぶたいつがこいあいこみ
こうだのうえたいうんこすこむうけまいつけかあたがいるまるむたこそねう
たいりあのあいういまでるこあこいもそまりかるわるがけあくあり上れとまいく

江戸
十編舎
一九作
新ぞん
ぢどけ文合
大坂日本橋南詰北へ入角安板
魚づくしの奉公人清状の事
めい
年ぶ
酒づくし新酒の事
長秀画

うそづく
一合のうく　奉公人清助の事

一　此度命とり若生国永松鯛業師奥の脇場所ひろけ上た
えびの小浦分後登鯛帝傍都青屋辰右衛門殿ゑ被頼
若者弐人　我未清人　ゑ力奥仕り浦ゑ出ル事之儀ハ
昔ハ三月の三月様鯛を年切給張りて鱗張三ツとの分百目程
張ル内ゑ鱗のくハ仕ル事ハ我ハ無ハ鱗帳ゑ入ル鯛本編場存ル義
いとより張の第一筋ゑ不為来ハて有ル種ハ

一　御ゑ入ゑ上げ切ゑ入ゑ漁と鯛のとゑ鱗ゑ鱗やくハ家ゑ
義ゑ鯛ゑめぐりあらんゑ漁のゑ中鱗ゑ
鯛の子也鱗ゑ上ル義鯛の張ゑ中ゑ義ハ迎抵鯛法ゑ
奥ノ書

奥がざみとゑめた清人ハ出ル逐ゑ奥ゑのゑ鯛ゑ
年切ゑ馬力ゑ義ハ動ゑ中ハ若御気ゑ
ゑ入ゑ鱗ゑ仕ハ鱗事ゑ対鱗方ゑ義中ハ鯛鯖
ゑて時ゑとゑ出ル奥ゑ鱗ゑ
一合のハ奥ゑのごとし

奥張宝年
丑ぜの九ッ月

奉公人　清助
　　丑ノ命
　　若生鯛業師奥の脇場所
　　ひろけ上たえびの小浦
　　辰右衛門殿
　　ゑ力奥仕り
　　大ゑ入ゑ所めぐりあ
　　清人
　　すけ左衛門
鱗左鱗ゑ助

新酒を形くしの事

一酒は町三升目たべけ盛れ帝を清傳家のんざや寿右ゑ門同女房はぞ暇
勤は帝娘おあ妹おちよ祝よろ母あちらう妹まん仲女きと　そひみれ人
右ゑ代〻よがうあん高　拙者たんぱうよちろうかくれ

一古酒ふつざ出ふひ切ちゑんがとろひあひざひとてたまひ方一彩酒　義ち付
拙ふつびけろかけひで拙者組津ふ出徳利めの祭ふ多ア春ねみゆんも
解めえせアるあ弥ふ弥ふくあゑんあをぐるのんぐろざのめ〜

ぢらハ十めん
亀どのへいなのれウ月

いやもの
八百屋店ひ帝版

ふびだーざん　寺
月連
ぐざはくざん
むふろ巣寺
むさくざ
大　そう
ちん

満知天乱國御文章

立田
土瓶
戯作

おどけもんく

長秀
画

大坂日本橋南詰一丁目　本屋板

いたづらものの遊うとめんどうな
ものをいひかけまごころの
どこやら一通りいまぢやうたたること
ふるひとこうどいまとこと色ひまかうを
うれしやもあるまひやうぎやうとそだわ
うれしやもあるまひやうぎやうとそだわ
きうまどわとそもあらど
きうまどわとそもあらど
乱き

呑龍軒戯作
新板
おや孫実
おかげ
えんく
大坂四女性を信ずるまつり女性板
狂言
上人色里教訓経

大阪名所
大阪
堂東南作
大清年間画師一丁亦八年写板

龍吞軒戯作
新板
おどけ
えんく
身上教経
大坂日本橋南詰二丁目東南角
中安板

男上かんぎん経

せけんしんしゅうのふるまいさだん
あらうんぜんのうかやうやうらんさぎう
ぜんやうごのうちをまんぞくさうみせん
かんぎうのやうしゅうあうわざんしゅうこんぱつう
たぶまびのあうちをうまつぶくあうのんじわ
えくはんりうふまくしんぱつちく

あきん経 ちく

ざにりんぎうあつあり一家うんうちり
ふうきえぐこうたいあうしさんだんいのしわ
ばさゆぎうらいのしたきたいかしゅうせんきうとぎう
ゆうちよげんふぎのうえさいむやくゆう
ばやいうこうぶゆう種ちうぶゆうそうの
ぎゆうぎうさやうちみやむやうだんきうをぢ
うふうぶぶやううぐえくひたやひだんや

ぎゃうさうけんぶつ
かめびけどんらごくさうとんぎょくそく
ちゃうこくをみだんとうたんかうご
へんをたてかたをやうぶいれてもぶんかう
ゆうしゃらあうぎょうぎんぐんぎょうぐん
町人百姓ちゃうにんあるひあうぎょうぐる
大きんぎょうあむ三ぎょうあ奉公経

あんさん経二ろ

彩はが
海苔り
たま
ねまへ
づく
しし

桂文治作

左文字新太郎

大坂ばたんぐりのあだつのふかのつびあたんぐう
ありてごがのかりかりと合ひ合ひ
もりかりしいたきつえんぐわのあ合ひとう
とうかりかりかれとかりかれとかりかだ
きつこいでいかれきりのかりきりのかだ
まりがきりきりきりきりとまりこれかりきりか
かりでごりまりかりかりかりもりかりれとりかりかりか
てきりまりきりかりかりかりかりかりかりかりか
りかりかりかりかりかりかりかりかりかりかりか

左文字　十八

文字ばかりかれまりのかりこりきりりりりりりか
りかりきりかりかりかりかりかりかりかりかりか
りかりかりかりかりかりかりかりかりかりかりか
の清たきまでもわきびかりと円かりきりかりか
ばかりかりかりかりかりかりかりかりかりかりか
のきかりかりきりかりかりかりかりかりかりかり
きりかりかりかりかりかりかりかりかりかりかり
まりかりかりかりかりかりかりかりかりかりかり
てりかりかりかりかりかりかりかりかりかりかり
とりかりかりかりかりかりかりかりかりかりかり

洛東ぢぬき　戯作

影落出作

娯人三蔵笑

又私が実の様がごぞまし。もしもびるまいりまして。園源寺
はそ場にまし。又私ひとりの五郎兵衛
弾正の弟とて。密夫の二番目。
し私ひとりそ。浦浜家ふるもの
家のめでごぞまして。
元祢の家ふうとうかめ。
ふ代前だうでごぞまかまるし
で。兄とやまして。
たまうの日本たまうじやあり
ありじやこのごこたまえ

天満天神の事　天満宮のもとづ　にぬることを

コウ源で今のみことを人さんごとの人のこと

ぺ〜そうのふ神うぞんだ。偽きこと人さう人とこのふ

ふこ[illegible]いそうしやう。脊の男からコウ色のようにうこと

ものぶ[illegible]のようこのこと。めいとのこと。ふたてたとうのふ

いユイ者もぜやひこうぐ。ぜうぐ。ぜうとひこうの。

もそうこれいこ[illegible]こうこうふ。ぜうしてまうこてぐう

ものげのぺうぐ。ものやうやたのいもやちん。ふ

ぜやうこれ。ものふ。ぜうぐこうこうこ。ふぐこうこん。ふ

ぜ。ぜうたうぐ。ものこのこのくんぜやどのこのぜそ。ぜうこ。ぜを

いふこ。ぜ。そこでとうや。ぜんとすぐ。ぜうふこ

百村百ぜ

せんぐ。ぜうこのこのこの。ぜ。ぜんぜ。ぜうこ。ぜうぐけ

ぜこ。百ぜぐ。ぜ。ぜうこ。ぜ。ぜうこ。ぜ。ぜうこ。ぜ。ぜや

げふぐ。ぜうこ。ぜうこ。ぜ。ぜうこ。ぜ。ぜうこ。ぜ。ぜうこ。ぜ。ぜ

そのようふ。ぜ。ぜ。ぜや。ぜ。ぜ。ぜ

[illegible]

（いつまでもこゝに御帯でいつまた

ちばのあんざん

[illegible]きんちやく切の女がつこの外[illegible]

て一面[illegible]

[illegible]

[illegible]

三人女　上ノ巻

いんらん上人の歌よ

六けさくもすんとて業産町入おはようまいらせた女房のお

▲まつをにいたりけるびごとをうけ申はるそれぞらくなりたる新とい所に女郎

堂めつ法ぎにふむをとやとうんをあらぐちひらけるぐうんをまをかま

ぎう次第ぐもんぐうぐしをとをあてかをけのくめくまーゆうとめはれをひ

めうにたりをさまをのるれんまめをさられをそをぶ所くをとやをそれまう

いりけ業うどをうる人来るる女郎やをういあうごんをひうくごゆうゆ

えぐいけうとえうをうをうしうんをしおひうをとしおうをうをてまのくて

あをうをうおんのひををちゆしひぐうめのをうらをとをれうをんをんをうち

のうをとしうみごをけのめひををおいをんををうしゆうみくを郎やをうの所まを

をあうをまやをぐくまをめいうををふををうをひうをれ月ううひをいうゆうひをを

おあぐうのんをいうをらびをうをけをうをゆぐんぶるをあのけるらぐをうんをけも

のびうぐゆをけるゆうぐくみゆうをとをのをやびゆををれの所まるをびゆをうをゆうう

ぐんををしをれを業をれひをんんをのをををををうをををををうををををを

うぶすがらのかやすのけそのこどもらやぐ〜ぎらこばをらこやぐ〜
まいく〜んまてとそのつぐいらい孫んさこゆうれうえんぐいどうふところ
にやうとさうさぐうまるさにゆやよられるこまうてれんまるぐれゆう
べんのかふこづうひのかむうひやひかれいうかひつけてくぐこさうへ
ままとかやうぐうにかさあうけでごるかぐこでくかうへ
ちまあいのゆるまくけんやとそのあいあうくとうをてまうだに
家ちまくもうちうとそれやようかやれのひるまるもうあうの
ひんどそいふくぐかうものめ〜んうぐうにとそひまうくさうん
といんらんとんのかにうけうけでごどれぐうゆうまるぐうゆぐん
あくかれかうーやめちんぐくさうれやけぐやううまうぐゆう
ううびやくぐびいうびんぐあでこるかむあのごあみぐみとく

新板

浪花

なとあづえーいわほ

歌當和訓

い いろはにほへとちりぬるをわかよたれそつねならむうゐのおくやまけふこえてあさきゆめみしゑひもせす

ろ ろんごあこうんごあぢくあいだんごくまぬいごんごさらいう

に ぬくまれどよめくごてうつくしあぢうまくらやきうづさうか

ほ ほうこけのつなるえごがあがりからのびれあうこいあるぎーうか

へ へさそのびいえごこあぶぬーあのくどうりいこうぬそんぐうても

と とうしんのぼごこへむうかあえあり おりいだろうまげうりまうらぬ

ち ちごくむこさるうかこうあえへのあだいよひうふうづりんこうう

り りんごんあさのどこやなこうらこうそうかうりふさあどかー

ぬ ぬとひとのひるひのあへらかあづかとこのあそかかいらやーく

る るいどうあてあまてるくのくごこへいこあったるまやうのさこ

を をふのあかうくのこれるあそこうがどひんのゆうかうやでかちあひく

わ わうこいとふうびとここのぼるくしやあうこてあくぬづたようつうこと

か かうこいとふうびとここのぼるくしやあうこてあくぬづたようつうこと

よ よあさきめらうめくこうふくのかうつみがのこれらふのりあうり

だいめうそひかうるうふりあのかぬづあづいるひぜんゆ

たくつ まく

れ れんごあそこもつぬえたりかたけふこれちあひのふうこう

つ つえのどまうあてぬうれなけものゆのうがづいんであていこらゆく

な なのこはあはまちるむあのりもりやいんがでのふてあわこせ

む むまれみくひどふあんがでとこゆくとにくるものふたいとこうあう

ぬ ぬまゆえどいどあこうこゆらあうくんくでひくりあぐこうっ

た たおあのこあまづくこまこぷーよこれがいのらけせんぐくでめうう

く くこりそこうこいづくらうんのめいあよくまあたーこるづく

や やまこりどこくふあぬこうよどこみせんこくてあるどけのふうまん

ま まうぬこあふくへぬくこのんこるむこくあのあづこうまあれあるこえ

け けいここなこりそこうあのあてあんづるこうんなれかこそのう

ふ ふこでこあまづどこどこどるこうこうこうこうこうこうこうこうこ

ろ ろうりあいこうこうあやだーら

こ	とれふとろよぞうまぞうけぞらで ごとくさんとてらとうけぞち	て	てらうふさとふめうろむれどと やうけのゆうふいふもぞだごけ	さ	さうけうろうまいけいとでも さうまこべどろぶてとでそうさい	ゆ	ゆそいしみけふるうさこのうろ いうふうろうてだんかめとむく	み	みてだまのさんごびゆるむうふ とのこんゆくのらんのめいうろ	ふ	ふのふいのらしてつううらのうハ いらまいひいてうろやかてさよ	る	るらいのらるけつかぞまふれとと くうのむとこごつけのらくのろ	す	すりゆんうつなまうをうーけくそ ひまいゆうりやうひくいふりり		
え	えんれちまいだんくごそうくハ ゑとうくうらうそふうそよやあうう	わ	わたあいくしれのごれとゑゆうる せりいううのわてふうくめうるゆう	き	きうけらうそゆるりひまいううごと せりとるるひくとめれごゑゆそまう	め	めの三月のあううまこのこうこのあ ちうりちういてめでごうりけうこ	し	しとびゆうごめうるゆごうふこん くらいだうう者りいくうらりぐく	ひ	ひごめいゆそごのゆくゆうゆうゆ あびうくしてくらゆうゆうゆく	せ	せいいみらくこゆのとうこうくのの そののえせのゆうごごうくゆら	京	京とうゆめのうくめごようるゆふハ ムうこ者でねとのるうたりこ		

京とゑ 彩り

物編　おどけかるーだゑ彩　桂文治作

二編　おどけ女夫久んぐつ彩　十返舎一九作

三編　おどけ講釈合戦彩　玉田玉蘭作

わるーなれ御のそこのゆう方様くハ一冊ずつのとぢりとけなとゆうこーゆう生
ゆう何方のなやりゆうんこやゆも賣出ーゑるおどけなあなと
ゑ作ゆうゆ者ーなやそんこやゆるゆう出来ゆうゆ出版仕ゆ

第壹紙物

お孫し愛

大坂ゆうとんぼり戎橋南詰東入　尾張屋治三郎
日ゆうゆうんぼり日なり橋南詰東入　なり屋安兵衛　板